

# 国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所  
〒259-1293 平塚市土屋 2946  
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス  
TEL 0463-59-4111 (内線 2200)

## 倫理学の復活

菅原晴之

マイケル＝サンデルの白熱教室が大人気である。日本では、学校教育の過程で哲学に初めて触れることができる機会は、高等学校の倫理社会の授業である。学問としての倫理学(道徳哲学)の分野はアリストテレス、プラトン、孔子、孟子など歴史的にも古くから発展してきた。学問としての蓄積は膨大な量に及ぶと考えられるのに、高等学校の教科書はあまりにも薄い。日本の多くの高校生は、この分野に関して試験直前に一夜漬けて勉強して、試験後にはその内容を大方忘れてしまう。古典や入門書を購入して哲学に没頭する人は少数派であろう。

サンデルの白熱教室は、西洋の古い道徳哲学・政治哲学から 20 世紀後半におけるロールズの『正義論』とそれを巡る論争までを素材としており、堅苦しい哲学の流れをコンパクトに集約しつつ、日常生活の身近な話題を事例として取り込んでいる。講義のスタイルは、千人に及ぶ学生を相手とする対話型である。ただし、実際に先生に質問できる学生は前列の 50 人程度であろう。また、漫然と聞いていても学説をよく踏まえて筋の通った講義なのか、劇場型の講義なのかを区別できないであろう。しかし質疑応答をよく聞いていると、質問する学生、または先生から当てられた学生の生育環境、友人関係等個人的な属性に関わる話題を除けば、日常的な事例を引き合いに出して答えている様に見えても、指定された参考文献、古典等をよく読んで予習しなければ話すことができない内容である。

さて、この白熱教室のテレビ番組を見た後、皆さんはどのような感想を持つであろうか。想定される答えとして次の選択肢が考えられよう。第一に、この白熱教室の全番組を見れば、倫理学の入門レベルとしては完結している。サンデルの対話型授業は 21 世紀におけるプラトンの復活であり、授業スタイルは完璧である。第二に、人気番組といわれてもさっぱり理解できなかった。教室ではプロジェクターを使っているので、概念図やフローチャートなどを利用して説明してくれたらもっと理解できる様な気がする。第三に、概ね日常的话题を採り上げて親しみやすく、ある程度わかった気分にはなったが、所得分配の公正、資源配分の

効率性、社会契約、規範、非協力ゲーム等時々わからない用語、その前後の文脈で理解できないこともあった。

第一の様に答える人は、入門書を読んでも大きな壁に当たって、哲学には関心を持たなくなるでしょう。このような人は、従事している仕事の分野でも、新しいことにチャレンジして成長することが期待できない。さもなければ、法学、政治学、経済学の分野を相当程度勉強した人である。第二の様に答える人の事情は様々であり、内容を理解するための処方箋も一律ではない。例えば、長い文章を読むことに慣れていない人は、文章の論点を整理し、要約するトレーニングが必要である。第三の様に答える人は、年齢にかかわらず、未知の領域を開拓できる可能性を秘めている。ただし、疑問点を文献等で調べ、プロの人の意見を聞き、やがて実践としての倫理学を咀嚼する人と、疑問点を放置する人に分けられるであろう。後者の人でも、仕事や子育てで一時的に多忙であり、仕事に関してはチャレンジ精神旺盛であれば心配無用。若いときに古典と格闘して理解できない点が残っていても、年を経てから読み直すと疑問点が氷解することはしばしばある。20 年ぶりの同窓会に出席して、昔の友人の人柄を見て新たな発見に遭遇する様なものである。

日本では昨年白熱講義が放映されたのに続いて、ロールズ『正義論(改訂版)』の新訳も刊行された。青木昌彦氏がロールズのエッセンスを日本語訳で紹介してから 40 年。現在では「もう入門書はいらない」というキャッチフレーズを付した哲学者カント、ルソー、ニーチェの翻訳書も多数刊行されつつある。平素より哲学に背を向けてきた人にとって、倫理学の壁はなお高い。しかし、この分野の古典と向き合えば、学問の専門領域や仕事の職種を超えて共通の会話ができる。今や、倫理学の先端分野は、政治学や法学との交流が進んでいることを強調するまでもないが、経済学の社会選択論(記号論理学)、ゲーム理論(確率論的功利主義他)との交流もロールズの正義論以来盛んである。このように、倫理学の分野はアマチュアにも入りやすい花園であり、応用分野も多様である。またプロには奥が深く、人間のあり方や民主主義社会の存在可能性に迫る知の森でもある。(所員/すがわら・はるゆき)

国際経営研究所

新年度の主たる研究支援活動、体制

共同研究プロジェクト関係

今年度完成年度の共同研究プロジェクト

- ① CSR 報告書研究 (代表: 関口 博正、構成員: 大田 博樹、照屋 行雄)
- ② 冷戦期東アジアにおける米国の文化戦略 (代表: 泉水 英計、構成員: 貴志 俊彦)
- ③ SHC における学生の英語習熟度に見るダイナミズム (代表: 金谷 良夫、構成員: 大橋 哲)

今年度継続される共同研究プロジェクト

- ① サービスオリエンテッドなデザイン手法の研究 — 本格的なユビキタス時代に向けたサービスデザインのあり方 (代表: 飯塚 重善、構成員: 行川 一郎)
- ② イギリス中世からルネサンス及び宗教改革期にかけての言語および文化の変遷 (代表: 池田 明子、構成員: 和田 忍)
- ③ 利害関係者による社会的企業化の満足度測定に関する研究 (代表: 菅原 晴之、構成員: 小島 大徳、B.R. カンデル、柳田 仁)

昨年度で終了した共同研究プロジェクト

- ① 『日本論』 グランド・セオリーの新展開 (代表: 石積 勝、構成員: 大森 美紀彦、金城 利光)
- ② 21 世紀における新しい企業システムの構築 — コーポレート・ガバナンス論と株式会社論の融合 (代表: 小島 大徳、構成員: 榊原 貞雄)
- ③ 教員免許更新講習についての研究 (代表: 関口 昌秀、構成員: 鈴木 そよ子)

昨年度終了プロジェクトは、報告書がプロジェクトペーパーとして出版されます。また、新規に3つのプロジェクトが“半減上陸”の形で登場します。

シンポジウム関係

下記の日程で、3つの個別企画を統合した大型のシンポジウムが企画されています。1つ目は、東北地方の大震災の関係で延期になっていた国際経営研究所主催の特別シンポジウム「モノづくり、コトづ

くり、そして智慧興し—グローバルな見方の再考—」です。2つ目は同じく国際経営研究所主催の小中高校生から募集する「わたしたちの提案」優秀作品発表会です。この企画は昨年度初めて実行し、所定の成果を得ております。今年度第2回になります。3つ目は平塚商工会議所の経営革新講座の受講メンバーが中心になって毎年実施しているシンポジウムです。受講メンバーたちは俗称 *Salon de WINE* のニックネームで呼び合っています。

大きくくりでは、“地球村時代の地域おこし”が良い響きではないか、と話し合っているところです。この3つめの企画に研究所は学部、大学院経営学研究所と共に協催の形で支援しています。

- ・ 日時: 2011年11月12日(土) 13:00~17:00
- ・ 場所: 平塚商工会議所大ホール
- ・ シンポジウム統一テーマ: 地球村時代の地域おこし (仮)

学会活動支援関係

本研究所の常任所員を含む複数の所員が所属している学会の全国研究大会が、下記の予定で SHC にて開催されることになりました。オブザーバーでの参加も可能ですので、ぜひご参加ください。

- ・ 学会名: 日本経営教育学会
- ・ 開催日: 2011年6月18、19日
- ・ 統一論題: 経営の原点を探る — 智慧興しの技
- ・ 特別講演者: (株)美装 取締役会長、福岡 義信
- ・ 基調講演者: (有) エスプリ・デキップ  
代表取締役、相山 洋明  
(株)セラリカNODA  
代表取締役社長、野田 泰三

常任委員の役割分担

- 全体運営: ○海老澤 栄一、菅野 正泰
- 編集担当: 『マネジメント・ジャーナル』  
○道用 大介、広嶋 進  
『国際経営フォーラム』  
○菅野 正泰、海老澤 栄一  
「国経研だより」

- 広嶋 進、道用 大介
- 地域リエイゾン: ○飯塚 重善、青木 宗明
- シンポジウム: ○青木 宗明、飯塚 重善  
(○は主たる担当)

## 「こんな不自然な自然に耐えられるか」－現代美術へのつぶやき－

加藤 薫

美術評論と美術史という二つの軸に沿って研究生活を送ってきている。このうち美術評論の世界では同時代性を常に意識せざるを得ず、現代美術の最先端の動向をキャッチしながら、思考のパラダイムを組み立てては崩すといった行為の繰り返しである。視覚情報の収集も一昔前ならば外国のものも含め出版物経由で事足りたのだが、最近ではインターネット経由で無限にあると思えるほど存在する様々なサイトにアクセスすることが必須になっている。というよりも、こういった情報環境でしか発表しない美術作家群が増えているのだ。この現実を世代論的要素も絡めて分析してみよう。

現在、美術の製作現場でもっとも若い世代といえ、1990年代生まれ、高校卒業直後の十代ということになる。特に大学生である必要はない。この世代の先端的な美術作家たちはソーシャル・ネットワーク・システムを使いこなし、作家同士の交流から組織化、自らの創作活動の発表、マネジメントを積極的に行っている。インターネットを中心とした情報環境と一体化した美術活動は、伝統的なモノ（絵画、彫刻、写真といった作品）と場（画廊や美術館、公園などの文化施設）を媒介として思索し、評価する従来の批評方法では追いきれないのだが、同時にもっと根源的な問題も提起されているように思える。

振り返れば、1990年代に登場したネオ・ポップの旗手たちはオタク文化のアイコンや表現手法を積極的にコミュニケーションのツールとして戦略的に利用した面ばかりが評価されたが、一方ではまだ情報環境との距離感を感じ、問題にしていた。この距離感の遠近の差はあれ、筆者などもこの新しい情報環境の出現を美術史の文脈にいかにかに接合させるかが課題であると感じていたので問題意識を共有できた。その90年代に生まれてきた世代

にとっては、もはやこの種の問題群は全て解決済みという印象を受ける。生まれてきた時からすでに情報環境が用意されていたという世代の考えだ。

美術の一用語として「自然主義」という言葉がある。一言でいえば、自然対象を見えるがままに忠実に再現しようとする制作態度だ。自然の側に存在と価値の原理があると理想化するので、対象の美を尊敬の念をもって探求すれば、その美がそのまま作品に反映されると考える。情報環境の存在を自明とする新世代にとってはディスプレイを通じて得られるフラットな人工的視覚情報もく自然>なようだ。現代の自然主義者はオタク的図像アイコンもサブカル的イメージも全て等価値に、

そして美を内包する自然対象として扱い、忠実に再現しようとする。だから素朴であればあるほど旧来の感性ではなく不自然>極まりないものなのだ。プリクラ的エキスときら

きらしたポップカルチャーの断片がサンプリングされ、ごちゃ混ぜに詰めこまれた表層はどんなに可愛らしいアイコンで満ちていても、不気味で恐ろしい。

かつて半世紀も前にアンディ・ウォーホールという美術作家が空気や水のようにどこにでもあると看破した商品や有名人肖像を消費記号のアイコンとして借用し、美術の文脈に取り込んだ前例からの流れではポップ・アートの、そしてオタク文化のアイコンを自明のものとして使いこなしていることからネオ・ポップのさらなる発展形といえるが、もはや単なる情報環境から得られる<自然>の借用であり、そこにはパスティーシュといったアイロニー性や批評性も存在しない。さてこんなに不自然な自然に耐えられるだろうか・・・それがモンダイなのだ。

(所員／かとう・かおる)

## 研究余滴

## ■ 2011年度

## ■ 国際経営研究所の主な活動予定

1. 所員会議  
年2回、第1回は5月11日
2. 常任委員会  
年10回(第1回は4月20日実施済み)
3. 出版広報活動
  - ① 「国際経営フォーラム」、年1回  
所員の特集中心にした研究成果
  - ② *Management Journal, annual*  
特集、公募の2本立て、特集は依頼原稿、公募は全国規模で経営学関連大学院研究者を対象に実施
  - ③ プロジェクトペーパー  
共同研究の成果報告、年3号発行
  - ④ 「国経研だより」年4回  
所員のエッセイ、研究所の活動成果、研究所が支援する各種団体の研究活動紹介
  - ⑤ 研究所英文リーフレット
4. 研究支援活動
  - ① プロジェクト研究
  - ② 共同研究(二面参照)
  - ③ 研究奨励
  - ④ 外部機関との研究携帯
5. 学部内連携活動
  - ① 国際経営学会活動支援
  - ② インターゼミナール大会広報支援
  - ③ 実社会体験研究支援
  - ④ 国際交流広報支援
6. 学内連携活動
  - ① 産官学連携推進
  - ② 総合理学研究所活動との連携
  - ③ 経済貿易研究所との連携
  - ④ フロンティアクラブ活動との連携
  - ⑤ 神奈川大学KU ポートスクエア主催エクステンション講座との連携
7. 地域連携活動  
平塚市、秦野市、平塚商工会議所、同中小企業相談所、茅ヶ崎市、同商工会議所、横浜商工会議所、他
8. 公開講演会  
学部講義と連動する形での講演会広報支援

9. 講演会企画
  - ① 地域を含む講演会企画  
各種国際経営フォーラム講演会、シンポジウムの企画開催
  - ② 平塚商工会議所中小企業相談所  
経営革新講座：シンポジウム企画支援(二面参照)
10. 新規事業継続計画
  - ① 小中高生を対象とした、第二回「わたしたちの提案」募集
  - ② 昨年度の“わが街の提案”アンケート結果を踏まえ、その成果を具体化する、いわば結び目(knots)効果を意識したコンシェルジュ構想のモデル化
11. 研究サロン開催  
退職教授を含む外部講師から経験豊富な研究歴のレクチャーを受け、情報を共有する場の提供
12. その他の活動  
平塚商工会議所の支援を得て、地元経営管理者との経営革新講座開催

## ■ 今年度国経研常任委員

事業拡張の関係で、1名増員になりました。今年度は6名体制です。1名の常任委員交替と1名の新規常任委員就任がありました。全体の布陣は、以下のとおりです(常任委員はあいうえお順)。

所長 海老澤 栄一

常任委員 青木 宗明/飯塚 重善/菅野 正泰/道用 大介/広嶋 進(太字は新任委員)

所員 46名

特任教員 6名

客員研究員 7名

総員 59名

## 編集後記

29号をお届けします。一面と三面のエッセイを菅原・加藤両先生から3月末にいただきながら、諸般の事情で刊行が遅れましたことを深くお詫び申し上げます(H)。